

中国を訪問して

自然科学研究機構
基礎生物学研究所長

山本 正幸 氏



教育随想

五月に北京大学生命科学学院で、大学院生たちに講演をしてきた。四十年近い研究者生活で中国訪問は初めてである。米国には三年半住み、ヨーロッパも幾度となく訪問したが、アジアは数回しか訪れていない。その最大の理由は、私が研究する分子生物学の分野では、中国や韓国を訪れてもこれまでほとんど得るものがなかったからである。欧米に目を向けていけば、世界の大勢から遅れをとることはなかった。

しかし、時代は変わりつつある。科学論文発表数の伸びで、中国は断トツである。ヨーロッパ諸国は漸増、日本は横ばい状態にある。かつては米国などに留学した日本の若者が、もぢまへの勤勉さで研究に貢献し、新しい息吹を持ち帰って日本の科学研究を発展させた。同じことが今中国で起こっているように見える。米国は長らく共産党支配の中国から人材を受け入れなかったが、方針の変更後は多数の中国人研究者が米国で研鑽を積み、今や中国政府の打ち出した厚遇政策に惹かれて、中国に



戻ろうとしている。しかも就職競争は激烈で、本心に優秀な人材しか中国に職を得られないと北京大学の教授は説明してくれた。

その教授は、中国の科学研究費はこれまで年に二十%ずつ伸びてきたが、今年度は十一%しか伸びないと嘆いていた。年に二十%の伸びだと四年で倍増である。対して日本では大学の経費が毎年一%ずつ減らされ続けている現状がある。国の発展段階を度外視した彼我の比較は、無意味かもしれない。中国もバブル経済のはじけや、貧富差、人権への目覚めなどを経験した上で、どこに行き着けるかが問題だと考えることにも一理ある。

ただ、今回一番印象的だったのは、

学生たちの真剣さと明るさである。彼らの研究はまだ十分洗練されていないと言いが、成長する国を背負う活力に満ちていた。報道では日中間は険悪な話題ばかりなので、ある程度の不快さは甘受するつもりで出かけたが、政府のやることと、市民は別という教授の解説が、彼らとつきあっていると至極妥当に感じられた。中国の一番の「脅威」は、実はこうした若者たちが将来生み出してくるパワーであろう。

ひるがえって、一足先に成長してきた我が国が、若者にどのような夢を与え、彼らから世界をけん引していく力をどれだけ引き出せるのか、今真剣に問われているように思う。

(やまもと まさゆき)



月報 岡崎の教育

平成26年7月1日

7月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 1
自然科学研究機構
基礎生物学研究所長
山本 正幸氏
- この人に聞く 2
ブルーベリーファーム
おかざき代表
畔柳 茂樹氏
- 羅針盤 2
国語科指導員 丹 郁人
- ふれあい 3
北野小 高瀬 透
- 特集 4
安心・安全・おいしい
みんなの給食
- お知らせ 6
- フォト・ヒストリー 8
自校給食
(昭和63年)
- この本を 8

人に聞く



自分らしく生きる

ブルーベリーファームおかざき代表

畔柳 茂樹 氏

岡崎市桑谷町の山間、竜泉寺川は目の前をのどかに流れる。この自然豊かな地に、二〇〇八年「ブルーベリーファームおかざき」は誕生した。「会社を辞めよう」と決意したのは、四十三歳でした。上司からの依頼を部下に伝え、できなければ休日出勤してカバーする。直接顧客の反応が見えない仕事だったので、やりがいも感じられず、身も心も疲れ切っていました。

大学卒業後、大手自動車部品メーカーに入社し、四十歳で、管理職に抜擢された。日々の激務をこなす中、自らの人生について考え始めたのはそんなときだった。当時のことを振り返りながら穏やかに話し始めた。「会社にはいくらでも自分の代わりがいるのではないか。自分にしかできないことをやりたい。一度しかない人生だから、後悔したくないと思

いました。そんな思いを家族に打ち明けると、新たな道へ挑戦することに賛成してくれました。」

大好きな自然と向き合い、そして人とつながりたい、そんな思いから観光農園への道を志すようになった。「いちご狩りやぶどう狩りのできる農園は、全国のいたる所にあります。挑戦するなら人の歩んだ道ではなく、誰も歩んだことのない道を切り開きたい。そこで、全国の農園を見学し、農業大学校で学び、出合ったのが、ブルーベリーでした。」

ブルーベリーは、国内で栽培法が確立されておらず未知の部分が多い。味も多種多様で、畔柳さんにとって魅力的な果実だったという。「ブルーベリーは、小粒で酸っぱいというイメージがあると思うのですが、本来の味は、甘くてコクがあるのです。また、品種によっても味が異なるので、私の農園では三十種類、千三百本の木を、栽培しています。その場で摘立てを食比べできるようにつくりました。」

お客さんの反応を直接見ることができる経営スタイルにこだわって、市場への出荷はしていない。企業に勤めていたころに培った技能を栽培管理や広告に役立て、今ではひと夏に七千人が訪れる人気農園となっている。

「ブルーベリー本来の味を知ってもらい、お客さんからおいしかったと言ってもらえたときの喜びは、企業に勤めていたころには味わえなかったものです。自分のやりたいことをして生きるということが、こんなに楽しいものかと実感しています。」そして、近年、畔柳さんは、この



喜びや充実感を多くの人へ伝えたいと思うようになったという。

「世の中には、仕事に対して喜びややりがいを感じられず、ストレスや過労で精神的に追い詰められている人は多くいます。そんな方に、自分の経験や知識を役立てたいと思うようになりました。」

二〇一二年から、年に十回程度、ブルーベリー農園についての講座を開催し、農園の経営方法だけではなく、自分らしく生きる素晴らしさを全国で伝えている。

「講座を受け、ブルーベリー農園を開園しようと準備を進めている方が全国にいます。その方々から、勇気をもって踏み出せたと、感謝の言葉をいただいています。一度しかない人生を自分らしく生きることの喜びを感じてもらえることが、今は私の生きがいでもあります。」

より多くの人に、ブルーベリーのおいしさを伝えたい、より多くの人に、自分らしく生きることの素晴らしさを伝えたいと、こやかに語る畔柳さんの表情は、自分で切り開いた道を歩む充実感に満ちていた。

氏名 くらやなぎ しげき
生年月日 昭和三十七年五月三十一日
住 所 岡崎市上地町

羅針盤

読みを深める

国語科指導員

丹羽 郁人

夏の到来と共に、中学校一年生は、物語「大人になれなかった弟たちに……」を読む。戦時下、弟の唯一の食べ物であるミルクを、「僕」は盗み飲みしてしまう。その弟は栄養失調で、大人になれずに亡くなってしまったのだ。作者の米倉斉加年さんは、実験をもとに、この作品を悔恨の思いで書き上げた。目の前の子供たちに、この作品を、どのように受け取らせるか。授業者の責任は重い。A教諭は、この作品に真正面から取り組み、「僕」が、どんな思いでミルクを盗み飲みしたか」という学習課題で授業を展開した。子供たちは、「僕」の気持ちに迫ろうと、何度も、何度も、懸命に叙述に戻る。B君は、「僕」がミルクを、何回も盗み飲みする事実を読み取り、「僕」がミルクを盗み飲みしていたのに、



子供の世界に心を寄せる

北野小 高瀬 透

現任校で、最初に担任したのが、六年生であった。子供たちはお互いをよく知り、だれがどんな時に何をするのか、おおむね認め合っている様子がうかがえた。その関係を私はなかなか見抜けないでいた。

A男は人懐っこい性格で、自分の興味あることを、担任の私によく話した。しかし、周りに合わせて行動することが苦手なため、友達からはわがままな子だ、と決めつけられているようだった。

学芸会に向けての練習が盛り上がりつつあったある日、A男は、学校に姿を見せなかった。

「別にいなくてもいいじゃん。A男の役、ぼくが代わりにやるから。」

仲間たちのその言葉が気にかかり、A男のことが、心配になった。思い起こすと、数日前の理科の授業での出来事が頭をよぎった。

私が、実験に使う材料を班ごとに配付したとき、最後に取りに来たのがA男だった。たまたま量の少ない物に当たったA男はつぶやいた。「最悪だ。」

よくあるA男の口癖なのだが、私は、「えっ。最悪とはどういうことだ。」と即座に問い直し、クラス全員の前で、必要以上の指導をしてしまった。しかも、大人の理屈を押しつける形で話したのだ。

しゅんと落ち込んだA男の表情を思い出し、はっとした。もしかして、A男には何かが起こっているのかもしれない。私は、いてもたってもいられない心持ちになった。しかし、学芸会の練習は、担任不在では思うように進められない。職員室で相談すると、教頭先生が、

「すぐにA男くんのところに行きなさい。クラスの話は、何の心配もしなくていいから。顔を合わせて、話ができるまでは戻ってきたらだめだよ。」

と、背中を押ししてくださいました。

A男の家に着き、何度も呼び鈴を鳴らした。一時間待った。A男は、猫を抱きながらカーテンの隙間から外の様子をうかがうように顔を見せた。私は笑顔で、A男と猫と交互に視線を送りながら近づいた。二人で猫をなでながら、家族のことや将来のことなど、他愛もない話をした。

A男は、自分の中に積み重なっていたものを少しずつ吐き出している感じだった。私は、話を聞くうちに、A男が満足な家庭環境ではない中で、自分自身の課題を後回しにしても、懸命に家の手伝いをしてのことや、その苦勞を、だれにも打ち明けることができないままにいることを知った。

子供たちが、学校で見せる表情や態度は、決してその子のすべてではない。子供たちも様々な人間関係の中で、無意識のうちにバランスをとりながら生活をしているのだ。

給食の時間が迫っていた。「腹が減ってきたな。給食を食べにいっしょに学校へ行くか。」

「うん。」

すっきりした顔をしていたのは、A男だけではなかった。



母親は気付いていたのではないかと発言した。ここで、A教諭はこう切り返した。

「それで、お母さんは『僕』を叱ったかな。」

子供たちが、『僕』の視点だけではなく、『母』の視点を得た、みごとな問い返しであった。

子供たちは、『母は、よく言いました。ヒロユキはそれしか食べられないのだから——』という叙述に戻り、食べたらだめだと言い切っていない『母』の葛藤を読み取っていく。

新たな視点から、文章を読み直す。同じ言葉から、同じ叙述から、新たな解釈が生まれる。これこそ、子供たちが、読みを深めた姿であった。

この授業での子供たちは、話合いを楽しんだ。そして、話し合う価値を見出した。

話し合うことを目指す授業でありたい。しかし、それだけが目的になってはならない。話し合うことで、読みを深めることは可能であると、この授業は教えてくれる。

今年も夏が来た。子供たちは、題材を通して、話合いを通して、『平和』の尊さを実感する。そして、大切な人を亡くしてしまう悲しみ、戦争への怒り、憤り、無念さに、限りなく近づく。



安心・安全・おいしい

みんなの給食

▲ ランチョンマットを利用して食事する子供たち（大門小）

学校給食の始まりは、今から一二五年前の明治二十二年だと言われている。当時は貧困な家庭の児童の救済が目的であったが、現在では、学校教育活動の一環として実施されている。学校給食法には、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること、健全な食生活を営む判断力を培い望ましい食生活を養うこと、我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深めることなど、七つの目標が掲げられている。

すべての児童・生徒に、安心して安全な給食を提供するために、近年では、放射性物質検査が行われるようになった。さらに、食物に関してアレルギーをもつ児童・生徒への対応として、アレルギーチェックリストの配付や、卵除去食の配食、牛乳の提供中止・減額など、様々な対応をしている。

その他にも、北部学校給食センターの移転・開設をきっかけに、食事の時の姿勢改善や、マナーの向上を目指して、従来のランチ皿を廃止し、副菜を盛付けるための仕切り皿を導入した。加えて、ランチョンマットを使用することで、清潔で、より良い食事環境を作るための工夫もされている。

さらに、給食センターへの中学生の職場体験学習の受入れや栄養教諭による授業などの食育の充実や、啓発活動にも力を入れている。給食の献立表をもとに親子で作る親子料理教室や、夏休みを利用した給食センター探検隊、さらに、「オリジナルキャラクター」「給食戦隊ツクルンジャー」を独自に生み出し、子供向けのショーを開催している。

児童・生徒を取りまく社会環境は様変わりし、子供たちの食生活が問題視されている。学校給食の重要性は一層高まっている。



▲ 学校啓発活動「給食戦隊ツクルンジャー」による夏祭りでのショー（三島小学区）

岡崎市学校給食のあゆみ（抜粋）

昭和	26	小学校単独校方式で完全給食開始
	46	北部給食センター開設（中学校14校全校）
	47	小学校一部センター方式開始
	49	東部学校給食センター開設（小中学校の一部向け）
	53	西部学校給食センター開設（全小中学校向け）
	54	米飯給食週1回導入
	57	南部学校給食センター開設
平成	18	額田町と合併（単独調理校9校・センター方式60校）
	19	北部学校給食センターが東阿知和町に移転開設
	22	学校統廃合により単独調理校6校へ縮小 食物（卵）アレルギー除去食開始
	24	単独調理校5校へ縮小
	27	全小中学校センター方式へ移行予定（9月）

放射性物質検査



検査対象となる産地(17都県)で生産された青果物などを丸ごとミキシングする。岡崎市保健所にて、月1回程度スクリーニング検査を実施している。検査結果は市ホームページにて公開している。

▲ 検査のために
粉碎された食材



▲ 検査前のミキシング

地産地消

新鮮でおいしい野菜を使っているよ!



美合・額田産のマコモタケ、高橋町産のホウレンソウやニンジン、矢作・額田産のナス、ネギ、巨峰、イチゴなど、岡崎産の食材を使用している。米、三つ葉、もやしは、岡崎産で全てまかなっている。生産量の少なさや材料費の高さなど、課題も多いが、様々な努力で実施されている。

安全

おいしい

食育・啓発活動



▲ 給食センター探検隊
(北部学校給食センター)

夏休みには
実際に中に入
って体験
できるよ!



現在、岡崎
市には8人
の栄養教諭
が配置され
ているよ。



▲ 栄養教諭による食育授業 (宮崎小)

活動

安心

食物アレルギーへの対応

食物アレルギーをもつ子供たちが健康な生活を営めるように、様々な対応がされている。平成22年度から、北部学校給食センターでは申請のあった児童生徒を対象に卵除去食を作っている。調理の過程で、除去食分だけ卵を入れる直前に取り分け、個人用の専用容器で配食している。



▲ 名前が書かれた
除去食専用容器



▲ 卵除去食の配食の様子

(保護者の声)

自分で作って持たせる手間が省けるだけでも、とても有難く思います。周りの子供たちと同じ給食を食べることができて嬉しいです。現在は週に1回程度ですが、対応してもらえると嬉しいですね。



● 教育研究所

教育研究所は、開設三年を経て、年間のべ約四万八千人の利用者数（平成二十五年末調査）となった。人気の教育図書室は、新刊教育図書の毎年の購入により、蔵書数六千冊を誇る。学習指導案、学芸会脚本、運動会DVDについても、新しいものが追加され、年々充実している。

本年度から、平成十五年以降の収蔵の学習指導案・蔵書・脚本が教育研究所ホームページから検索できるようになった。教育研究所だよりについても、同ホームページで閲覧できるようになり、教育研究所の情報を、より手軽に得られるようになっていく。先生方の教育実践に、大いに役立てていただきたい。○住所・問合せ先



岡崎市上地三丁目十二一
電話八三―七七七〇
○休館日 日曜日・月曜日・祝日

● 教育相談センター

教育相談センター内には、教育に関する相談ができる「そよかぜ相談室」と、登校支援を行う通所施設の「ハートピア岡崎」がある。

「そよかぜ相談室」は、子供の健やかな成長を願い、教育に関する相談をするなかで、保護者・教職員・子供と共に考えながら問題の解決を図っている。主な相談内容は、
①特別支援教育に関する相談
②就学に関する相談
③いじめや不登校に関する相談である。今年度から臨床心理士が三名に増え、いじめや不登校などの心の悩みの相談に、より迅速に対応できるようになった。

「ハートピア岡崎」では、通所が可能な子供に対して、学校生活への適応性を高め、学校復帰を目指した支援を行っている。そのために、ハートピア専属の臨床心理士の助言を得ながら、一人一人の子供に合った指導を心掛けていく。また、学校の不登校担当者や担任と連絡を取り合い、子供の状態を共通理解して、多方向から子供を支えることができるように努めている。

この春、高校の制服を着てセンターを訪ねてくる子供たちがいた。かつてセンターに通っていた高校生たちである。わずかな時間、遠回りをしたかもしれないが、今はしっかりと前を見て、自分の道を歩んでいる。通所している子供たちの未来も、このように明るいものになるように、各学校の協力を得ながら、職員全員で力を合わせ、子供たちを支えている。

○連絡先 電話七―三三二〇―
○受付時間 月～金 九時半～十六時半
土 九時半～十二時

● 少年自然の家だより

楽しく充実した山の学習に
一学期、須淵の森に、中学生の笑顔がたくさん見られた。例年のようなオリエンテーション合宿に、一工夫を加えた自然体験活動が行われた。

外来種の植物環境調査をしながらウォークラリーをしたり、入所式までの時間を使って、須淵の里の歴史探索ハイキングに出かけたり、調理の仕方を考え、熱々のうどんすきを作ったりしていた。また、「無限に学べ！」のテーマで、焼きそば作りに挑戦し、絆を深めた中学校もあった。学校側は事前によく下見をし、キャンパスサイトの石とブロックを上手に組んで鉄板台を作った。当日、生徒たちは友達と力を合わせて、楽しそうに焼いて食べていた。

本年度、少年自然の家の運営目標として、自然体験活動に対する三つの柱を立てた。第一が「自然を肌で感じよう」である。自分たちを取り巻く自然環境に目を向け感動できる心を育てることである。次が「体を使って挑戦していこう」である。何事も自ら汗流して体を使うことである。三つ目が

「友達の良いところを、見つけよう」である。自然のなかでの人との関わり合いを大切にしていこうである。この三つの柱は、岡崎の教育が進んでいるESDの考え方にも通じるものである。

六月には、「初夏の虫ウォッチング」、「蛍に親しむ夕べ」などが行われ、夏休みには、中学生も参加する「須淵ワイルドキャンプ」も予定している。夏から秋へ、楽しく充実した自然体験活動ができるようにしていきたい。

● 表彰

◆第三十回愛知県中学生体重大柔道大会
男子八十一kg級 第三位

六ツ美北中三年 國重遊羽
◆平成二十六年FBC春花壇コンクール（県）

優秀賞（名古屋鉄道賞）
三島小学校

優秀賞（中部善意銀行賞）
細川小学校

奨励賞
岡崎小学校
上地小学校

六ツ美中部小学校
形埜小学校

地域花壇優秀賞
細川小学校区花壇



● 第五十七回岡崎市中学校
総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	矢作	六ツ美	美川
	女	竜海	六ツ美北	甲山
バスケットボール	男	北	城北	竜海 葵
	女	六ツ美北	北	葵 美川
バレーボール	男	竜海	矢作	矢作北 竜南
	女	南	矢作北	竜海 北
ソフトテニス	男	美川	矢作	北 河合
	女	甲山	北	矢作北 翔南
卓球	男	額田	矢作北	矢作 城北
	女	北	矢作北	額田 岩津
新体操	女	南	東海	
剣道	男	矢作北	北	竜海 額田
	女	矢作北	額田	竜南 矢作
ハンドボール	男	竜南	六ツ美	美川 葵
	女	美川	六ツ美北	
軟式野球	男	城北	南	岩津 竜南
ソフトボール	女	竜海	城北	甲山 北
柔道	男	矢作北	竜海	六ツ美北 竜南
	女	甲山	北	矢作北
サッカー	男女	竜海	南	葵 甲山
水泳	男	矢作北	東海	甲山
	女	矢作	葵	北

●水泳競技 (個人成績・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男	50m自由形	市川 智哉	竜海	27"17
	100m自由形	渡邊 千陽	甲山	★55"72
	200m自由形	高木 一輝	美川	2'16"75
	50m背泳ぎ	杉浦 康平	矢作北	34"40
	100m背泳ぎ	瀬野 興樹	竜南	1'08"49
	50m平泳ぎ	近藤 皇我	甲山	33"05
	100m平泳ぎ	畑野 良将	岩津	★1'10"19
	50mバタフライ	岩瀬 悠乃介	岩津	30"97
	100mバタフライ	菅田 慎悟	矢作北	★58"51
	200m個人メドレー	中濱 亮太	城北	★2'14"60
女	400mメドレーリレー	樋江井・下川・中根・月見里	東海	4'31"95
	400mリレー	中濱・牧・宮本・林	城北	4'02"26
	50m自由形	杉町 瞭香	北	30"38
	100m自由形	浅岡 小粋	城北	1'03"62
	200m自由形	浅井 祐香	北	2'30"69
	50m背泳ぎ	久田 麻白	北	35"48
	100m背泳ぎ	千明 楓花	城北	1'09"52
	50m平泳ぎ	江坂 仁美	矢作	37"39
	100m平泳ぎ	宮田 唯月	葵	1'23"90
	50mバタフライ	小柳 怜香	竜南	31"75
子	100mバタフライ	折田 佳世	新香山	1'10"96
	200m個人メドレー	山村 夏実	葵	★2'29"00
	400mメドレーリレー	山村・酒井・鈴木・尾崎	葵	4'56"30
	400mリレー	山村・尾崎・鈴木・酒井	葵	4'30"05

●陸上競技 (個人成績・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男	OP1年100m	鈴木 将太	城北	12"9
	100m	田中 颯人	岩津	11"9
	200m	鶴田 一志	甲山	24"1
	400m	宇野 佑亮	常磐	53"2
	800m	奥野 凱	常磐	2'05"4
	OP1年1500m	有我 和真	甲山	4'42"2
	2年1500m	藤原 隆公	甲山	4'29"9
	3年1500m	藤田 研太	美川	★4'19"9
	3000m	長谷部 航	矢作	9'27"8
	110mH	河合 辰貴	六ツ美	16"1
	400mR	後藤③ 豊田③	六ツ美	46"4
		河合③ 黒柳③		
	低400mR	西川② 細江①	翔南	49"2
		三浦① 若山②		
	走り幅跳び	中根 吹	矢作	5m95
走り高跳び	大海 慶	東海	1m80	
砲丸投げ	中村 達郎	美川	11m98	
棒高跳び	杉浦 拓実	翔南	2m80	
女	OP1年100m	天野 桃花	南	14"2
	100m	山本 里菜	六ツ美北	タイ 12"6
	200m	佐野 文香	竜海	27"6
	OP1年800m	兼原 遥花	甲山	2'34"1
	800m	宇野 佑紀	常磐	★2'20"3
	1500m	細井 衿菜	矢作	4'51"8
	3000m	浦野 真由	六ツ美北	★10'37"1
	100mH	本間 夢乃	六ツ美北	15"9
	400mR	岡③ 安井②	六ツ美北	51"9
		沖田③ 山本③		
	低400mR	政本② 小船①	岩津	55"1
		高橋① 辻②		★予選54"5
	走り幅跳び	軒村 香穂	竜南	5m30
	走り高跳び	後藤 優果	翔南	1m45
	砲丸投げ	近藤 沙南	竜海	11m47

●柔道競技 (個人成績・1位のみ)

種目	性	階級・部門	氏名	校名
柔道	男子	軽量級	坂口 慧透	葵
		軽中量級	鈴木 大介	矢作北
		中量級	駒場 亮太	竜南
	女子	重量級	橋本 晟弥	竜南
		軽量級	坂本 彩	六ツ美北
		軽中量級	金子 実樹	北
	中量級	内田 美愛	甲山	

※ ★…大会新記録 タイ…大会タイ記録 OP…オープン種目

・カ
ツ
ト
三島小
浅井優子

自校給食 (昭和63年)

写真提供：夏山小学校

大きな釜に木蓋、そしてタイルを張ったかまどの写真は、夏山小学校に、平成三年まで建っていた木造校舎の調理室である。昭和五十三年、岡崎市内全小中学校が、センター方式の給食となった。平成十八年に岡崎市と合併した額田地区については、合併前に引き続き、単独方式の給食が続いた。

「自校給食」と呼んでいるのは、学校給食協会を通して発注された食材を使って自校で調理しているからである。夏山小学校では、二人の調理員さんが勤務し、給食の時間には、できたてがふるまわれる。センター方式、単独方式と方法は違っても、給食を楽しみにしている子供たちのために調理員さんが細心の注意を払い、真心を込めて、作ってくださっている。おいしい給食は、子供たちの成長を支え、学校生活を支える大切なものである。



おいしい給食をほおぼった子供たちの顔に、思わず笑みがこぼれる。教員になって、「給食、いいな」と友人から羨ましがられる。給食は大人になっても忘れられない思い出の味なのだ。多くの子供は、大人になったら食べられない。

子供だけの特別なレストランは、今日もそれぞれの学校で開店する。

人生を自分らしく生きたいと誰しも願う。今、目の前にいる子供たちは、数年後、それぞれの道を歩むことになる。

子供たち一人一人が、誇りをもって自分らしく生き、幸せな人生を送ることができるように支援することは、私たちの大切な使命であると、改めて感じた。

シ オ ス ア

涼やかな音が聞こえてきた。風鈴の音色は、耳には涼を、肌にはあすかな風を、運んでくる。そして、どこか懐かしい気持ち呼び起こされる。



林田加杜子

朝陽を浴びながら、みずみずしい朝顔がいくつも咲き誇っている。入学したての一年生が、五月に種をまき、毎日世話をし育ててきた。

あの頃、緊張した面持ちで過ごしていた一年生は、朝顔と共に、ぐんぐん成長し、今、日焼けした顔にいっぱい笑顔の花を咲かせている。



* 決断の心理学 和田 秀樹
小学館 ¥1,400

心に残った一文
カッコ悪くても生き残るのか、損をしても人のために決断するカリスマになるのか。あなたが何を財産と考えるかによって、決断が分かれるのです。

織田信長は「素早く逃げる」ことを決断し、徳川家康は「危険を買って出る」ことを決断した。この比較は興味深い。英雄たちの決断というと、彼らの頭のよさやすごさに目がいきがちである。しかし、決断に至るまでの心理的背景に目を向けてみると、意外な事実がそこにあった。人生は決断の連続である。決断に迷ったとき、先人から学ぶことは多い。この本は、何か決断の方法を授けてくれるに違いない。

* 世界の頂点に立つ人の最強プレゼン術 松本 幸夫
綜合法令出版 ¥1,200
* とまらない 三浦 知良
新潮社 ¥680
* 凜とした子育て 金 美鈴
PHP研究所 ¥495
新香山中 杉田 吉男